

平成 17 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏 名 西脇二一

最終学歴	京都大学大学院理学研究科地質学鉱物学専攻博士課程修了
取得学位	京都大学理学博士
所属学会	国際数理地質学会 (IAMG)・国際堆積学会 (IAS)・経済堆積学会 (SEPM)・国際古生物学会 (PS)・日本地質学会・日本古生物学会・情報地質学会・情報知識学会・日本堆積学会・リモートセンシング学会・日本ベンソス学会・応用地質学会・土木学会・地盤工学会
現在の専門分野	地球情報学
研究課題	地球科学情報のシステム化に関する研究・人工衛星データによる地形・地質の判読に関する研究・赤坂石灰岩の地質学的古生物学的研究

【研究上の特記事項】

2005年度科学研究費 データベース「在日本脊椎動物化石標本データベース」の分担者

.....

.....

.....

【教育上の特記事項】

.....

.....

.....

【社会的活動】

日本情報地質学会評議員(2007.3.まで)・編集委員長(2006.3.まで)

情報知識学会常任理事(2006.3.まで)

金生山化石館運営委員(2006.5.まで)

第17回国際堆積学会組織委員

【学内活動】 (学内職歴を含む)

教務委員・情報処理センター運営委員・ネットワーク委員・大学評価委員(2005年度)

奈良県大学連合FD懇談会委員

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1				
2				
3				
4				
5				
(学術論文)				
1 人工衛星データによる地形解析事例 その3	共著	2006年3月	奈良大学 no. 14, pp 総合研究 . 137-144 所報	LANDSAT-7 E T Mを用いて奈良地域の解析を行った。パンクロの第8バンドは高い分解能を持っており詳細な地形が読み取れる。奈良は「大阪」と「伊勢」のシンの重複地域にあり、立体視による地形観測ができる。第1-5および7バンドを用いて奈良市域の土地利用を4区分し、住居地域と区分された地域と住居番号付与地域の差異を検討した。
2 Semi-automated Observation System of Silicoflagellate Skeleton by Personal Computer	共著	2005年9月	Proc. vol. 2, IAMG '05 pp. 1242- 1247	単純な管状の骨格を持つ海洋プランクトンSilicoflagellateに数量分類を適用するために必要な骨格計測を半自動化する方法を開発した。変形した876現生標本を計測した結果、4つの型に分類され、その区分はいくつかの環境変数とある程度の関連性があることが分かった。
3				
4				
5				
(学会発表)				
1 Semi-automated Observation System of Silicoflagellate Skeleton by Personal Computer	共同	2005年9月	IAMG 2005, Toronto, Canada Toronto	学術論文2. と同一
2				
3				
4				
5				
(その他)				
1 日本国際地質学研究連絡委員会報告	単著	2005年9月	情報地質 vol. 16, no. 3, pp. 217- 218	
2 日本国際地質学研究連絡委員会報告	単著	2005年12月	情報地質 vol. 16, no. 4, pp. 251- 253	
3				
4				
5				